

障がい者相談員のとびき 別冊

精神障がい者相談Q & A（質問と答え）



©2014 大阪府もずやん

大 阪 府

目次

(1) 家事に不安のある方	1
(2) 本人の就職を希望している家族について	2
(3) 同じ立場の友人がほしい方	4
(4) 服薬に不安を感じている方	5

大阪府の相談機関に寄せられた相談からいくつか紹介します。
相談者のプライバシーを守るために、相談の主旨を変えない範囲
で、内容は一部変更しています。

(1) 家事に不安のある方

Q <48歳の男性からの相談です>

精神障がい（統合失調症）のある自分は長年両親と生活していましたが、最近父親の死亡により高齢の母親と二人で暮らすようになりました。

父が元気だった頃は家事もこなしていた母が、父の死後体調不良が続き、ここ数か月は自分が母に代わって家事をすることになりました。自分では、インスタントラーメンを作れるぐらいで、毎日同じような食事しか準備できません。掃除や洗濯も手につかず、困っています。

A このような状態ですと本人には、家事援助が必要かもしれません。ホームヘルプサービスの導入を検討するため、市町村の窓口を紹介しましょう。また、高齢の母親のことも気になりますので、母については、市町村の高齢分野の相談窓口を紹介しましょう。可能であれば、すでにどこかに相談をしたことがあるかどうかを聞いてみてください。また、母親が現在の状態をどう思っているのか、これまでサービス利用について検討されたか、検討されていたにもかかわらず利用にまで至っていない場合は、どういった理由で利用されなかったかなども確認しましょう。

制度のことをよく知らない人には、制度に関する情報提供と、ホームヘルプサービスなどの福祉サービスの利用を視野に入れて、福祉事務所・市町村の障がい福祉担当課、高齢分野の相談窓口を紹介してみてください。

本人が一人で相談に行くのが不安な時は、窓口まで同伴する

ことで不安の軽減に役立つこともあります。

また、ホームヘルプサービスのことは知っているが、利用経験がない人には、ホームヘルプサービスについて相談員自身がイメージを伝えられるようにしておくとういと思います。

さまざまな理由によってサービスの利用に至らなかった場合や、問題が複雑な場合には、通院先の主治医やケースワーカー、福祉事務所・市町村障がい福祉担当課の職員、障がい者相談支援事業所の相談支援専門員に相談してください。

(2) 本人の就職を希望している家族について

Q <母親からの相談です>

32歳の息子は大学卒業後、いったん就職しましたが、統合失調症を発症し、入院をするなどした後、退職しました。その後、病状のゆれが激しく入退院を繰り返し、現在は通院中です。年に1度くらいアルバイトに行きますが、1週間くらいしか続きません。

夫の定年を間近に控え、経済的なことも心配なので、息子をなんとか就職させなければ、という焦りがありますが、適当な就職先が見つかりません。息子にあった仕事を探してあげたいと思っています。

A まず「本人が仕事についてどのように思っているのか」ということについて、聞きたいところです。年に1度アルバイトに行くとのことですが、そのほかの日はどのように過ごされてい

るのかを聞く必要があります。また、お母さんには「仕事に就かせたい」という気持ちが強くありますが、本人は、「働きたい」と考えているのか、「年に1回くらいで精一杯」と考えているのか、本人の気持ちを知りたいところです。また、病状のゆれが激しい方とのことなので、就労することについて、主治医がどのように考えているのかを相談・確認してもらうことも重要です。

本人に就労したいという気持ちがある場合、情報提供できるものとしては、ハローワークの専門援助窓口、障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、OSAKAしごとフィールドがあります。本人の相談内容に応じて、こういった就労支援のさまざまな機関を紹介することが考えられます。

また、すぐに就労は無理だが訓練等を受けてみたいという場合は、障害者総合支援法の訓練等給付として、就労移行支援や就労継続支援（A型・B型）を行う事業所もありますので、そういったところを活用して就労をめざしていくということも考えられます。

なお、焦る気持ちから「就職したい」と言われる人もいます。就職ありきではなく、障がい年金等を受給することにより、経済的な不安が軽減して、安心して生活を送れるようになることもあります。「就職したい（させたい）」という訴えの背景にどのような思いがあるのかを考えながら相談を受ける事が大切です。

(3) 同じ立場の友人がほしい方

Q <29歳の男性からの相談です>

大学生のときにそううつ病になり、その後、現在まで通院・服薬を続けています。当時からの友人は、病気のことを知った上で話を聴いてくれ、友人関係は続いているものの、仕事や結婚のことなど、自分と状況が違うため、だんだん話題が合わなくなってきた、会った後も気持ちがすっきりしません。特に病気の辛さについてはなかなかわかってもらえず、最近では会っても話題が途切れがちです。

病気のつらさを共有できるような友人ができればと思いますが、どこで見つければよいかわかりません。

A 病気で悩む人が同じ立場の人と話してみたい、経験を分かち合いたいというのは自然なことです。また、精神障がい者相談員自身が病気の経験がある場合は、お互いの経験を語ることで、この悩みに応じられるかもしれません。医療機関のデイケアや地域活動支援センター、就労継続支援事業所（A型・B型）などに通うことで、同じ経験を持つ方と出会えることもあるでしょう。

また、団体の活動としては、大阪では府域全域をカバーする大阪精神障害者連絡会（愛称：ぼちぼちクラブ）があります。精神障がい者当事者が、悩みや苦しみなどの体験をわかちあうための電話相談を行っていますので、こちらを紹介するのも一つの方法です。

それ以外にも、地域によっては、セルフヘルプグループ（自助グループ）があるところもありますので、地元市町村の精神障がい担当窓口や障がい者相談支援事業所、地域活動支援セン

ター等でそのような情報がないか確認してみるのもよいでしょう。

(4) 服薬に不安を感じている方

Q <25歳の女性からの相談です>

2年前に発病し、入院を経た後、現在まで通院服薬をしています。主治医からは統合失調症と言われています。

現在、幻聴を軽減する抗精神病薬や、不安を抑える抗不安薬、副作用止めと便秘薬を朝昼晩飲むように言われており、寝る前には睡眠薬を追加で飲みます。最初は薬がなかなか合いませんでしたが、現在はうまく合っており、この半年ほどは同じ薬で安定しています。

主治医は「薬を飲んでおくように」と言います。自分でも、発病当時よりは、合っていると感じてはいるものの、「この先いつまで飲み続ければよいのか」と、漠然とした不安を感じています。

このまま薬を飲んでおいたほうがよいのでしょうか。

A 主治医が一定の治療方針のもと判断している薬の問題については、相談員が判断せず、「服薬の継続の時期については、医療的なことですので主治医の先生とよく相談してください」と、主治医の先生と話し合ってもらうようにアドバイスをします。本人の薬に対しての不安や心配を受け止めた上で、主治医に気持ちや不安を伝えて薬のことも確認してみるよう伝えましょう。その際、基本的な知識として、統合失調症などの精神疾患の治療で

は、通院・服薬は非常に重要で長期間の服薬が必要となることが多いことや、服薬中断が再発につながることが多いこと、薬の量やその反応には個人差が大きいいため、主治医との相談が重要であることを知っておいてください。

また、相談員が、日頃から精神障がい者と交流し、通院服薬しながら、いきいきと暮らしている精神障がい者の人の姿を知っていれば、「薬を飲みながらいきいきと暮らしている人もいますよ」というようなアドバイスをすることもできるでしょう。

大阪府福祉部障がい福祉室

令和7年3月発行

〒540-0008 大阪府中央区大手前3丁目2番12号

TEL：06-6941-0351（代表）

FAX：06-6944-2237

ホームページアドレス

https://www.pref.osaka.lg.jp/soshikikarasagasu/s_shogaifukushi/index.html